



本市の中央部に東西に延

びる広範な地域を、菅野・

東菅野といいます。この地

域は、北部の台地と国道14

号線の通る市川砂州にはさ

まれた低湿地で、その昔、

『万葉集』に歌われた「真

間の入江」の中心部に当た

ります。後世、スゲ(菅)

やアシなどが密生していた

ところから、「菅野」の地名

がうまれました。

この低湿地には、北から

国分川、東からは大柏川が

流れ込み、それらが数条の

流れになって江戸川に注い

でいました。このため、雨

が降るとすぐに浸水するこ

ころが多かったのです。そ

こで、明治四十五年、八幡

町を中心に周辺十カ町村が

協力して、耕地整理を実施

しました。これは大正八年

に完了しましたが、この結

果、真間川が一本の水路に

改修され、耕地が整備され

たので、田畑が広がり、米

の生産も増えました。しか

スゲ(菅)やアシの密生地

菅野・東菅野

し、まだまだ豪雨の後の浸
水地は残りしました。

明治四十四年、この菅野

の地域に日本パイプ株式会

社市川工場が建設され、大

正五年京成電鉄が菅野駅を

開設すると、駅周辺には人

家が集まり開発されていき

ました。そして、大正十五

年に国府台女子学院、昭和九年に日出学園、同十二年に市川学園、二十二年昭和学院、三十年東京歯科大学、三十九年歯科大学の付属病院として市川病院が誕生しました。このようにして、菅野が私立学校の集中する地域になりました。

また、この菅野の地には、昭和二十一年、永井荷風と文化勲章受賞者である幸田露伴が、あい前後して移り住みました。

露伴は、自分の住居を、蝸牛庵(かぎゅうあん)と名付けました。蝸牛庵は、現在の菅野四丁目三番に当たります。露伴はそこで、大正十三年から始めた「芭蕉七部集評釈」を、病床にありながらやっと完成させると、昭和二十二年七月三十日、八十歳でこの世を去りました。菅野が、露伴終焉の地になったのです。

荷風は、菅野の地で居所を二転、三転と変えました。昭和三十二年八幡に移り住みました。彼は、菅野にいた二十七年に文化勲章を受賞、二十九年には日本芸術院会員に選ばれています。このように、菅野は、わが国近代文学史上忘れることのできない土地なのです。

昭和四十二年住居表示の実施で、菅野・東菅野に分かれました。

写真は、耕地整理以前の菅野から真間方面を望む。

今回は「鬼越」を予定しています。

(社会教育指導員・綿貫喜郎)